

シラバス

科目名	国内運賃	必修/選択	必修
授業時数	60時間	担当教員	荻原 秀貴
対象学年	1年前期 トラベルコース	実務/一般	実務教員
形式	講義		
学修内容	全国各地の鉄道の運賃計算・料金計算の方法を学んでいきます。またグリーン車、新幹線の特急料金、団体割引等が適用された場合の計算方法も併せて学びます。		
到達目標	国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者の取得を目指します。		
授業の方法	基本的には教科書に沿って学習していき、その内容がどういう形で国家試験に出題されるのかを並行して学びます。		
評価方法	日々の授業態度・出席日数、そして期末試験の点数にて評価します。出席状況15%、授業態度5%、課題(試験)80%で評価します。		
授業時間外に必要な学修	普段見る機会の少ない時刻表に目を通したり、各地毎に適用される割引方法等をリストアップして、復習して下さい。		
使用教材教具	国内運賃(教科書)		
留意点	あくまで、国内旅行業務取扱管理者試験の科目の一つに過ぎないので、その他の旅行業法・旅行業約款・国内観光地理の勉強にも励んで下さい。		

授業計画	
1	JR運賃：第1章1の(1)～3章1の(7) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
2	JR運賃：第1章1の(1)～3章1の(7) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
3	JR運賃：第3章1の(8)～2の(3) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
4	JR運賃：第3章1の(8)～2の(3) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
5	JR運賃：第3章3の(1)～(11) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
6	JR運賃：第3章3の(1)～(11) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
7	JR運賃：第3章4の(1)～5の(3) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
8	JR運賃：第3章4の(1)～5の(3) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
9	練習問題及び回答① 過去問題の小テストにより理解度の確認及び国家試験演習。
10	JR料金：第4章1の(1)～1の(4) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
11	JR料金：第4章1の(1)～1の(4) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
12	JR料金：第4章1の(5)～(6) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
13	JR料金：第4章1の(5)～(6) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
14	JR料金：第4章1の(7)～(9) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
15	JR料金：第4章1の(7)～(9) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
16	JR料金：第4章2の(1)～4の(4) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。

17	JR料金:第4章2の(1)～4の(4) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
18	変更・取消・払い戻:第5章1の(1)～2の(2) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
19	変更・取消・払い戻:第5章1の(1)～2の(2) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
20	団体乗車券:第6章1の(1)～1の(12) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
21	特別企画乗車券:第6章2の(1)～第7章2の(8) 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
22	航空、貸切バス、フェリー、宿泊 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
23	航空、貸切バス、フェリー、宿泊 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
24	航空、貸切バス、フェリー、宿泊 国家試験に向けた授業と実務として旅行業に必要な基本知識習得を目標。
25	練習問題及び回答② 過去問題の小テストにより理解度の確認及び国家試験演習。
26	国家試験に向けた過去問題試験①
27	国家試験に向けた過去問題試験②
28	国家試験に向けた過去問題試験③
29	国家試験に向けた過去問題試験④
30	期末テスト

シラバス

科目名	イベント&コンベンション	必修/選択	必須
授業時数	30時間	担当教員	柴田 美香
対象学年	2年後期 トラベルコース	実務/一般	実務教員
形式	講義		
学修内容	この授業では、【つどい】と【コミュニケーション】について学び、観光産業との密接な関係を学んでいきます。		
到達目標	イベント&コンベンションについて学んでもらい、最後には、身近なイベントの企画 プレゼンテーションをすることで理解を深めます。		
授業の方法	イベント&コンベンションの始まりから、種類 観光業界との関連を学んでもらいます。座学でイベント&コンベンションの始まりから、種類 観光業界との関連を学んでもらいます。その後インバウンド向けに郷土博を企画&発表してもらいます。		
評価方法	発表内容の評価と普段の授業態度等を総合的に評価します。特に授業態度では「自分の人生とどう向き合う」姿勢を重要視します。成績については、出席状況15%、授業態度 15%、試験 20%課題50%で評価します。		
授業時間外に必要な学修	新聞やニュースをチェックして、どんなイベントやコンベンションが行われているか、アンテナを立てて注意して見てください。		
使用教材教具	特になし		
留意点	大きなイベントやコンベンションだけでなく、身近なお祭りや、人々のつどいなどにも関心を持って、参加してみてください。		

授業計画	
1	イベント&コンベンションのあらましについて。 どんなものがあるかを学ぶ。
2	イベント&コンベンションとは。 イベントやコンベンションを通してのコミュニケーションの特性を学ぶ。
3	イベント&コンベンションの観光産業。 MICEについて学ぶ
4	イベント&コンベンション産業 かかわりのある業種。 運営全般を総合的にコーディネート。
5	コンベンション施設について 種類を学習する。
6	コンベンション・ビューローとは 役割と機能について学習する。
7	イベント&コンベンションの推進機関は何があるか 観光庁 JETROなどについて学習する。
8	イベント&コンベンションのリスクについて 保険制度などについて学習する。
9	イベントを企業してみよう テーマ【郷土博 インバウンド誘致】① 外国人に群馬の魅力をアピールして訪問して貰おう！
10	イベントを企業してみよう テーマ【郷土博 インバウンド誘致】②
11	イベントを企業してみよう テーマ【郷土博 インバウンド誘致】③
12	企画をもとにプレゼンテーション①
13	企画をもとにプレゼンテーション②
14	企画をもとにプレゼンテーション③
15	まとめ イベント&コンベンションの今度の課題と展望について。